



司祭団マラソン大会ウォーミングアップ風景
 “風を切れ‘オレ’。タイムは神のみぞ知る”

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

ことば

主任司祭 工藤 秀晃

主の御復活、おめでとうござい
 ます。また、この春、卒園・卒業
 され、次のステージへと進まれた
 皆さん、新生活を始められた皆さ
 んに心からお慶びを申しあげます
 仕方のないことはいえ、様々な
 ことが中止や縮小され、自粛ム
 ドがただよい、否が応でも息苦し
 さを感じざるをえないこの頃です
 が、そのような中であっても新た
 な門出を共に慶びたいと思いま
 して、小泉吉宏さんの「一秒の
 言葉」という詩をご存知でしょ
 うか？昔、時計のコマーシャルに
 いられたこともある結構有名な詩
 ですから、ご存知の方も少なから
 ずいらっしゃるかとは思いますが、
 せっかくなのでご紹介したいと思います。
 「はじめまして」 この一秒ほ
 どの短い言葉に 一生のときめ
 きを感じる言葉がある
 「ありがとう」 この一秒ほ
 の言葉に 人の優しさを知らな
 とがある
 「がんばって」 この一秒ほ
 の言葉で 勇気がよみがえって
 くることがある
 「おめでとう」 この一秒ほ
 の言葉で しあわせにあふれる
 ことがある
 「ごめんない」 この一秒ほ
 どの言葉に 人の弱さを見るこ
 とがある
 「さようなら」 この一秒ほ
 の言葉が 一生の別れになる時
 がある

一秒に喜び 一秒に泣く 一生
 懸命 一秒
 たった一言で、一秒足らずの言
 葉で、私たちは元気にもなりません
 し、反対に落ち込んでしまうこと
 も多々あります。それこそ、言葉
 の持つ力であり不思議さでもある
 と思うのですが、よくよく考えて
 みますと、この世界は父なる神様
 の「光あれ」と言う一言から始まっ
 たわけですね。大天使ガブリエルを
 通して告げられた御父の想いは、
 「お言葉どおり、この身に成りま
 すように。」とのマリヤ様の受託
 の言葉によって、救い主イエス様
 のご誕生へと繋がったのです。御
 父のみ旨を全うされたイエス様の
 十字架上における最後の一言「成
 し遂げられた」によって、私たち
 の救いの約束は確固たるものとさ
 れたのです。福音記者ヨハネは、
 その冒頭で「初めに言があった。
 言は神と共にあった。言は神であ
 った。」と声高らかに宣言していま
 す。
 普段、何げなく発している「こ
 とば」ですが、そこに神様の息吹
 を感じるものが、そして重ねること
 とができたなら、もっと誰かを力づ
 け、勇気づけることができるのか
 もしれません。新型コロナウイルス
 が世界中で猛威を振るい、地球
 規模で先行きの不安と閉塞感に包
 まれており、国や地域や場所によっ
 ては今なおミサを奉げることもま
 まならず、人としても、キリスト
 信者としても心が枯渇しそうで、
 一つ間違えば「自己中心的な立ち
 振る舞い」になりそうなので、今
 こそ、なおさらのことそう思いま
 す。

中村長八神父様

列福第2章へ

中村神父様の列福に向けて、新たな段階に上がったことが、東京在住の青木勲神父様から報告されました。なお、青木神父様は二〇〇八年に、浦頭教会にブラジルからの巡礼団を引率されていきます。

その文章を掲載します。

ドミンゴス

中村長八神父の

列福調査までの経緯

一九四〇年三月十四日、アシス市の司教からアルヴァレス・マシャード市長に電話があり『中村神父は、日本人墓地ではなく、市営墓地の中心に埋葬するように。非常に高徳な方なので何年か先に墓を発掘するようになる。その時に神父の体になる。その時に神父の体に粗相がないように』今この司教の預言が現実になってきた。

一九八三年十一月十五日、中

村神父の渡伯六〇周年を記念して、アルヴァレス・マシャードへの巡礼が企画され、巡礼者八〇〇人以上を数え、教会から墓地までの「中村通り」を埋め尽くした。これを機会に、「中村長八歴史資料収集委員会」が発足し、その後一九八七年四月二十一日「中村長八歴史博物館建設委員会」に発展した。島本要長崎大司教と野下千年神父のブラジル訪問の折に、日本からの援助金を頂き、一九九一年三月十七日、聖ヨゼフ教会の境内に日本風の瀟洒な博物館が完成した。プレジデント・プルデンティのドン・アゴスチーノ・マロッチ司教によって祝別された。同年八月、新潟教区の佐藤敬一司教とイエズス会のヴェンデリーノ・ローシャイテル神父の訪問の際に、直接中村長八神父の列福調査の開始を勧められて、一九九四年九月四日、『ドミンゴ

ス中村長八顕彰委員会』が発足し、二〇〇二年マリリア市でボツカツ大司教区管区の定例司教会議の折に、司教団と日伯司牧協会、ドミンゴス中村長八顕彰委員会の代表者が一堂に会して、ボツカツ大司教と十二名の司教の署名捺印をいただき、「神の僕」に向けての申請書の提出案を満場一致で承認した。埋葬地のあるプレジデント・プルデンティの教区長ドン・ジョゼ・マリア・サラッチョ司教名義で、教皇庁の列聖省に提出した。「神の僕」への認可証書が二〇〇六年十一月六日に列聖省から送付され希望の灯が膨らんだ。現在は、第一段階のプレジデント・プルデンティ教区レベルでの膨大の資料の検証が済み、令和二年（二〇二〇年）二月十四日付で、列聖省での中村神父の聖性を精査する第二段階に入ったところである。彼の聖性が承認されると『尊者』の称号を受けるが、まだ公的な典礼では祈念されない。証聖者の場合には

少なくとも一つの奇跡が必要となる。中村長八神父の列福調査は、着実に歩を進めている。移民の父、ドミンゴス中村長八神父の名前が正式に祭壇上で読み上げられる日を待ち望みながら。

《自己紹介》

洗礼者 ヨハネ青木 勲（一九四四年十一月十二日生）マリア会司祭（一九七六年三月二十一日叙階）。一九七七年九月四日、マリア会のブラジルでの宣教創設に、日本管区の最初の宣教師として派遣される。マリア会では養成担当者、司牧活動では、パウルー教区、マリリア教区内で小教区での司牧。日系人司牧では、日伯司牧協会、会長時代にブラジル移民百年祭、中村長八列福運動開始期に協力。二〇一一年二月七日、日本帰国。以来九年間、日本地区長として奉仕し、今回任期満了。

司祭団マラソン大会

一月二十八日、毎年恒例の司祭団マラソンが開催された。神父様約二十六名、一般から四名の参加があった。毎年、大会当日は寒かったり、雪がちらついたりだが、今回はあいにくの雨模様。スタート二十分前。まだ雨は止まず「あるのかな？」と不安がよぎる。しかし、神父様方が集合すると雨は止み、絶好のコンディションとなった。神



父様方の熱意が、天の神様に伝わったのでしよう。

堂崎教会の広場で各々が準備運動をした後、集合写真を撮り、スタート地点へ移動。「救護者はハイエースです。悪魔のささやきが聞こえた人は乗ってください。」と鳥瀬神父様の声。ウケたのは、隣りを歩いていた私だけ：だったような。

工藤神父様の追っかけをやっている私は、神父様を見つれることができず、探しながらゴールの福江教会へ。すると、工藤神父様は既にゴールしているではありませんか。その為、工藤神父様の勇姿は来年へ持ち越しとなりました。



合同黙想式

木口 空斗

中学生になって初めての黙想会に参加しました。今回の黙想会で特に心に残ったことは、シスターのお話です。

「高齢者の方々のお世話をすることを通して人の役に立てることが嬉しい。」と、おっしゃっていました。僕も自分のことだけでなく、周りの人のことを考えて行動できる人間になりたいです。

また昨年、三十八年振りに教皇様が長崎を訪問されたときの映像を見ました。僕は県営野球場で行われたミサに参加することができなかったので、映像を通して教皇様の平和や核兵器廃絶への重要なメッセージを聞くことができ良かったです。赦しの秘跡で告白した罪を償い、これからも堅信に向けて頑張っていきたいと思えます。

鍋内玖伶彩

「全ての命を守るために」このテーマの下、黙想会に集まった中学生は約三十人ほどでした。島の少子高齢化に伴い、信者の数も減っている事を実感しました。そんな中始まった黙想会で、シスター岩田は、「命は守り、大切にしていくなければならない」と話されました。私は今まで、いつか終わる命を、なぜそこまでして守ろうとするのか疑問でした。しかし、シスター岩田のお話をきいて、命はいつか終わるからこそ大切に守っていくべき尊いものだと思いました。「全ての命を守るために」まずは、自分の命を大切にしようと思います。そしていつか、シスター岩田の様に優しくなり、誰かの命を手助け出来ればいいです。人命が軽視されがちな現代社会で、命の保護は世界共通の課題だと感じた黙想会でした。



幼児洗礼式

洗礼式を迎え 木口 誠也

沿道の河津桜が早目の見頃を迎え、少しずつ寒さも和らいできた二月二日、皆様が見守って下さる中で、息子・愛斗の洗礼式が行われました。

式が始まるまでは、途中で泣き出したらどうしよう、洗礼の水を受けた時は大丈夫かな、などの心配がありました。が、親の心配をよそにぐずる事もほとんどなく、くりくりした瞳で神父様と両親を見つめていました。生まれて四ヶ月。洗礼を受けた事で、この浦頭教区の一員としての第一歩を愛斗は踏み出しました。親として道を示し導いていけるよう、頑張ろうと考えています。信徒の皆様、この新しい仲間をどうぞ宜しくお祈り致します。



初聖体

二月二十三日、今年は二名の男児の初聖体を行う事ができました。木口夏綺君、入口真輝君、それぞれ今年の春から小学生になる子供達です。

前日に、初めてのゆるしの秘跡を行い初聖体に臨みましたが、告解部屋からは教会内に大きく響く、「今日までの罪」を工藤神父様に告白しました。

間違いなくイエス様にも届いたでしょう。

式は神父様、平和のばら保育



園園長川口シスター、保育士の方々のご指導によりスラスラと受け答えができておりました。

保護者を代表して、木口誠也さんより、本日までご指導への感謝の言葉と花束等をお贈りしました。

これから始まる教会学校、侍者を通してますます神様の事を理解し、他者を思いやれる子供に成長していきますように!!

我々保護者も、家庭からも信仰の光を灯せるよう努力したいと思えます。



コピー機が新しくなりました

五十周年記念時の各方面からの御寄付、ありがとうございます。以前の古い型式から最新のコピー機に入れ替える事ができました。

様々な機能があり、使い方もおいおい勉強しながらとなりそうです。各委員会の会議資料や、島のひかり作成の時に大いに活用したいと考えております。

新役員

今年役員変更が少ない年です。ので、変更者のみ記載します。

青年会会計

川口怜美 ↓ 竹山由夏

※カテキスタは分かり次第、次号以降でお知らせします。

奥浦中学校 卒業式

答 辞

巣立ちの時を迎えた今、新たな一歩を踏み出す喜びと、慣れ親しんだ母校に別れを告げるかなしみが、私たちの胸にこみ上げています。今日は義務教育九年間を締めくくる日、中学校生活三年間を締めくくる日。

そして、たくさんの思い出を作った仲間と別れ、自分の夢を叶えるために新たな旅立ちを迎える日です。

三年前、私たちは奥浦中学校の門をくぐりました。体に合わない大きな制服に身を包み、少し大人になった気分でした。先輩方に温かく迎えられ、いよいよ始まる中学校生活にワクワク、ドキドキし、大きな期待と小さな不安で、なんとも言えない気持ちで胸がいっぱいだったことを思い出します。

一年生での忘れられない思い出は、修学旅行です。福岡では私たちの故郷、五島・奥浦のこ

とを伝える活動に取り組みました。二年生では中堅学年としての自覚を持ち、行動すること。分かってはいても、行動に移すことができないことで叱られることもありました。

時には、家族や先生方にも抑えることのできない感情をぶつけたこともありました。

そんな中、私たちは職場体験学習に取り組みました。

五島市の事業所に体験の場を与えていただいたおかげで、両親の苦勞を自分の役割に責任を持って果たすことの大切さを実感できました。

奥浦小・中・市民運動会は、天候に恵まれず、後で行なわれた発表会で、全校ソーランを披露し、観に来てくださった方々から大きな拍手とアンコールをいただいた時の充実感や達成感、今でもしっかりと覚えていきます。

学習発表会では、私たちが奥浦のためにできることを考え、防災・減災をテーマにした発表

と、夏休みから取り組んだロボコンの実演が披露できました。



時の流れは早く、私たちは今この卒業式の場に立っています。

この別れは、三年間、同じ学び舎で過ごした仲間との別れです。今日を境に、私たち九名は九通りの夢に向かって歩み始めます。この三年間の日々が、私たち九人の夢を叶えるための支えとなり、力になると確信しています。

どんな時も私たちに惜しみない愛情を注ぎ育ててくれたお父さん、お母さん。何があっても帰る場所は家族です。うれしい時、落ち込んだ時、反抗した時、さえも待っていてくれる家族がいるからこそ、これまで頑張ることができました。

在校生の皆さん。私たちの姿は、皆さんにどう映ったでしょう。私たちは皆さんの支えのおかげで、様々な行事や部活動に取り組むことができました。ありがとうございます。

四月には新しい仲間が入学して来ます。新たな仲間と共に皆さんが目指す『奥浦中学校』を創り上げていってください。

皆さんならきっと大丈夫です。頑張ってください。

思い出を力にして、新たな一歩を踏み出す時です。

「この気持ちはなんだろう
あの空の あの青に 手をひ
たしたい

まだ会ったことのないすべて
の人と

会ってみたい 話してみたい
もうすぐそこに、新たな出会いが待っています。

これから私たちは、奥浦中学校の卒業生としての誇りを胸に命を輝かせ、歩み始めます。

令和二年 三月十七日

卒業生代表 高橋 菜々子

秘跡

《永遠のやすらぎを》

マダレナ 浜口チヨノ

二月二十六日 浜泊 92才

《幼児洗礼式》

一月二日 木口 愛斗

(父・誠也、母・由紀)

《初聖体》

二月二十三日

木口 夏綺 トマ

(父・誠也、母・由紀)

入口 真輝 フランシスコ

ザビエル

(父・信、母・理恵)

《婚姻》二〇二〇年三月一日

仁田 英成

マリア 荒木 弘美

《転入》

濱口博文 幸子 隆博 聖也

名古屋教区 押切教会より

《転出》

鍋内 慎 浦上教会へ

浦口 優志 福岡教区湯川教会へ

大浦 紉莉 京都教区草津教会へ

おたより

浦頭小教区設立50周年おめでとうございます。

豊富な充実した写真、記事満

載の記念誌を興味深く拝見させていただきます。

時を同じくして来日の教皇様の長崎でのミサも、同時掲載されてとても良かったです。

聖血礼拝修道会那須修道院

シスター・安彦 道代

昨年は、浦頭教会の五十周年記念式典にも参加させていただきました。ありがとうございます。

奥浦中学校は、皆様方のご理解ご支援のおかげで、子どもたちを健やかに育てることができています。奥中学校長 森 樹実人

ありがとうございます

次の方々より沢山の御芳志をいただきました。誠に有難うございます。

五島市 河野 暁 様

栃木県 聖血礼拝会

那須修道院 様

諫早市 木口 涼 様

シスター移動

《転出》大愛お世話になりました。

〒八五二一八一二四

長崎市辻町十七一三

浦上サンタ・マリアの家

Sr 岩崎 しのぶ

《転入》よろしくお願ひします。

青砂ヶ浦修道会 Sr山添 春子

ふるさとだより

カフェ

オフィス

樫ノ浦には天然記念樹アコウ

の木や、安産祈願でも古くから知られている観音堂があり訪れる人がありますが、周辺に公共のトイレも休憩所もなく、また一人暮らしの老人が集まって語る場所としても活用したいという目的でプロジェクトを起ち上げ、賛同者に出資をしていただき、また大工の小田さん、設計士、土地と協力者があって完成しました。

「カフェよろじゃん」憩いのスポットにしたいと皆様の御来店をお待ちしております。



編集後記

木口 重憲

全世界に猛威を振るうコロナウイルス。地球温暖化と共に現在の最大の脅威になるだろうと予言されていた、パンデミックがついにその正体を現わした。長崎大司教区も、大切なミサの中止、各種行事の延期等で混乱の中にある。

そんな中、三週間程行なわれていなかったミサが、三月二十二日、久しぶりに行なわれた。ミサには、マスク姿の疫病に対する鎧をまとった信徒が続々と教会を埋めていく。

神父様の説教は、喜びの第一声から始まった。「皆さん、ご無沙汰しておりました。皆さんと又、出会えてとてもうれしいです。」信徒の顔に笑みが広がった。コロナに負けるな！！

☆なお、今度の島のひかりは新型ウイルスの発生により、各種行事が中止となり、六ページになりました。ご了承下さい。！！